

令和6年度「人権を確かめあうアンケート」 結果資料

奈良県教育委員会

【実施目的】

- 県内の児童生徒が「いじめ」の被害者にも加害者にもなることのないよう、また、教職員等の言動による「ハラスメント」が起きることのないよう、お互いに人権を確かめあうとともに、学校環境を点検する機会とする。
- 実施結果を、人権尊重の視点に立った学校づくりの推進に役立てる。

【実施方法等】

- 実施対象 県内の公立学校（小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校）の児童生徒
- 実施方法 Google Workspace for Education のフォームを活用して、各学校にて実施
- 実施期間 「人権を確かめあう日」である令和6年12月11日（水）を基準日として令和7年1月17日（金）までに実施
- 実施状況 回答数等
 - ＜回答学校数合計＞ 314校
 - 小学校 177校
 - 中学校 92校
 - 義務教育学校 9校
 - 高等学校 30校
 - 特別支援学校 6校
 - ＜児童・生徒数合計＞ 90,679人
 - 小学校（義務教育学校前期・特別支援学校小学部を含む） 50,138人
 - 中学校（義務教育学校後期・特別支援学校中学部を含む） 23,746人
 - 高等学校（特別支援学校高等部を含む） 16,795人

【資料の項目】

- （1）嫌な気持ちになったこと
- （2）相手を嫌な気持ちにさせたこと
- （3）教職員からの言動に関すること
- （4）一人一人のちがいを認め合うこと

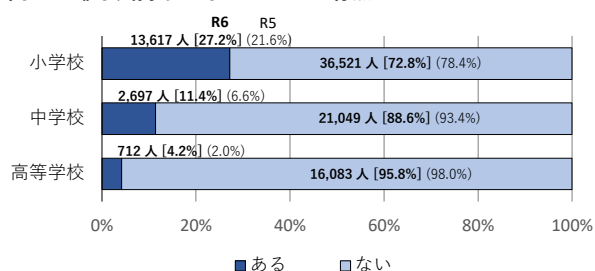
※結果の表示について

「今年度の回答者数」「今年度の割合」「前年度の割合」を並べて表示
（「今年度の割合」を〔 〕内に、「前年度の割合」を（ ）内に示す。）

（１）嫌な気持ちになったこと

※昨年度は「いじめと感じるようなことをされて、嫌な気持ちになったこと」

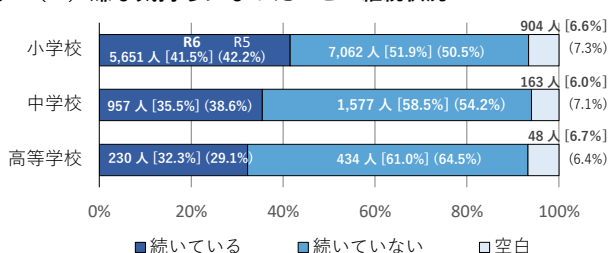
問１ 嫌な気持ちになったことの有無



学校段階が進むにつれ、「嫌な気持ちになったことがある」と回答した児童生徒の割合は下がる傾向にあった。

(問１で「ある」と回答した児童生徒について)

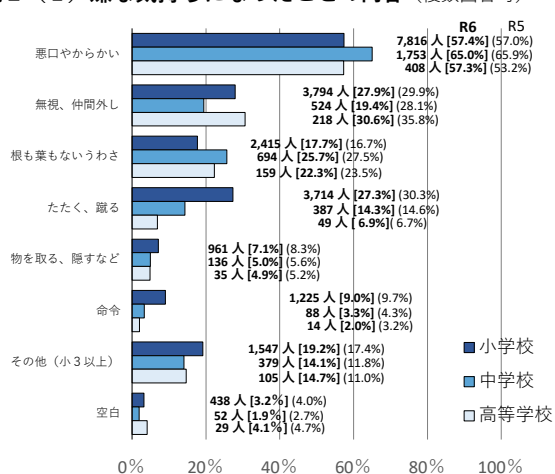
問２（３）嫌な気持ちになったことの継続状況



小学校においては約４割の児童が、また中学校・高等学校においては３割を超える生徒が嫌な気持ちになったことが解消されていなかった。(回答時点)

(問１で「ある」と回答した児童生徒について)

問２（１）嫌な気持ちになったことの内容（複数回答可）



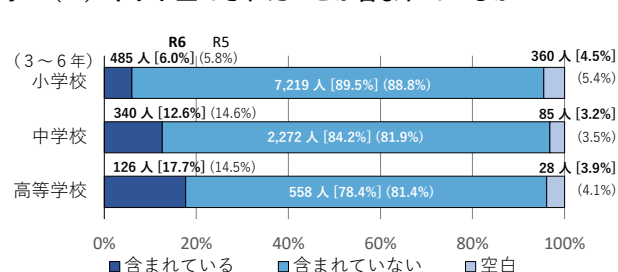
「その他」の記述例

・男っぽいといわれた ・名前をバカにされた ・体型のことを言われた
・嘘をつかれた ・外国人だと差別された ・無断で写真を広められた 等

嫌な気持ちになった内容について、全校種において、「悪口やかからかい」が最も多かった。

(問１で「ある」と回答した児童生徒について)

問２（２）ネット上でされたことが含まれているか



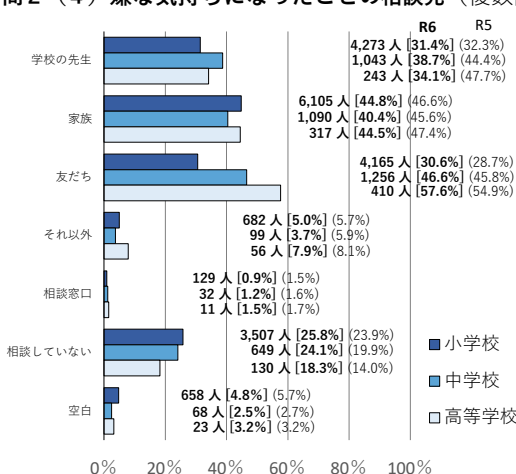
【参考】問２（１）より

小学校１・２年生における、「ネットを使って、悪口を言われたり、仲間はずれにされたりした」と回答した人数と割合 245人 [4.4%] (5.1%)

嫌な気持ちになったことについて、ネット上でされたことが含まれている割合は、昨年度より高等学校で3.2%、小学校で0.2%増加し、中学校で2.0%減少した。

(問１で「ある」と回答した児童生徒について)

問２（４）嫌な気持ちになったことの相談先（複数回答可）

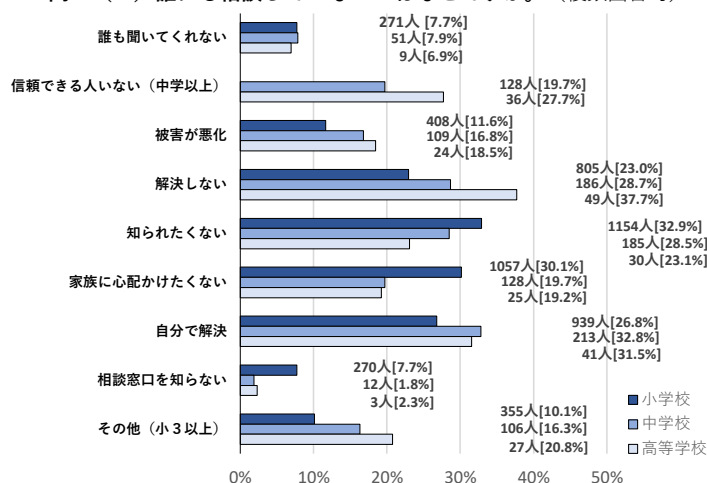


学校段階が進むにつれ、「友だち」に相談する割合は上がる傾向にあった。
また、全校種において約２割の児童生徒が「相談していない」と回答した。

※今年度より新設

(問２（４）で「相談していない」と回答した児童生徒について)

問２（５）誰にも相談していないのはなぜですか。（複数回答可）



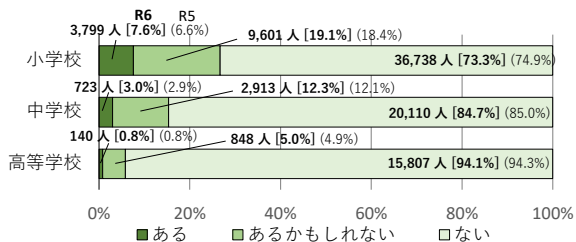
小学校は「他人に知られたくない」「家族に心配かけたくない」が多く、中学校・高等学校では「相談しても解決しない」「自分で解決しようと思う」が多かった。

「その他」の記述例

・話す勇気がなかったから ・配信上で注意した場合やめてくれる人が多いから ・相談するという思考に至らなかった 等

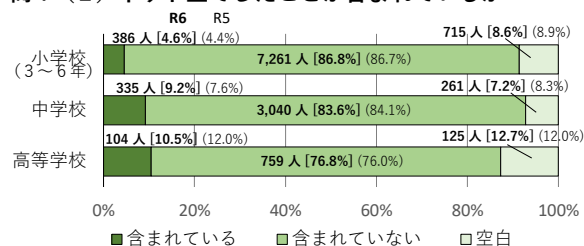
(2) 相手を嫌な気持ちにさせたこと

問3 相手を嫌な気持ちにさせたことの有無



学校段階が進むにつれ、「嫌な気持ちにさせたことがある」「あるかもしれない」と回答した児童生徒の割合は下がる傾向にあった。

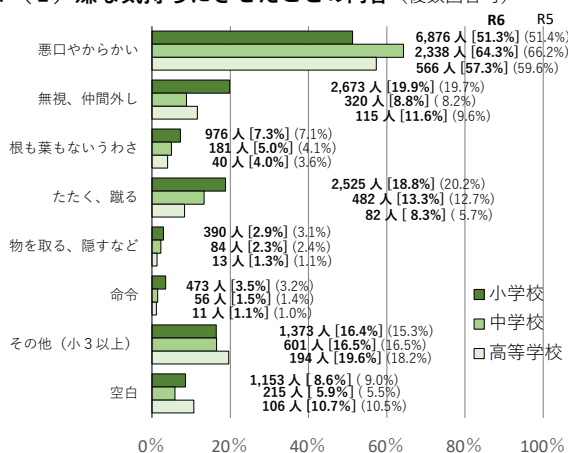
(問3で「ある」「あるかもしれない」と回答した児童生徒について)
問4 (2) ネット上でしたことが含まれているか



【参考】問4 (1) より

小学校1・2年生における、「ネットを使って、悪口を言ったり、仲間はづれにした」と回答した人数と割合 133人 [2.6%] (3.3%)

(問3で「ある」「あるかもしれない」と回答した児童生徒について)
問4 (1) 嫌な気持ちにさせたことの内容 (複数回答可)

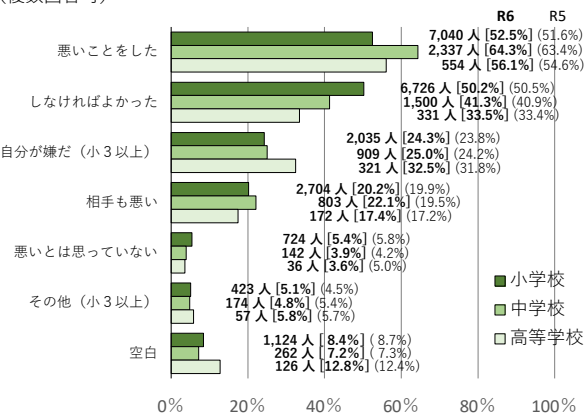


「その他」の記述例

- ・イライラしたときに八つ当たりした
- ・強い口調で言ってしまった
- ・許可なく動画を撮った
- ・いじりをした
- ・触れてはいけない話題に触れてしまった
- ・知らないうちに傷つけたことがあるかも知れない。

嫌な気持ちにさせた内容について、全校種において、「悪口やかからかい」が最も多かった。

(問3で「ある」「あるかもしれない」と回答した児童生徒について)
問4 (3) 嫌な気持ちにさせたことに対する気持ち (複数回答可)

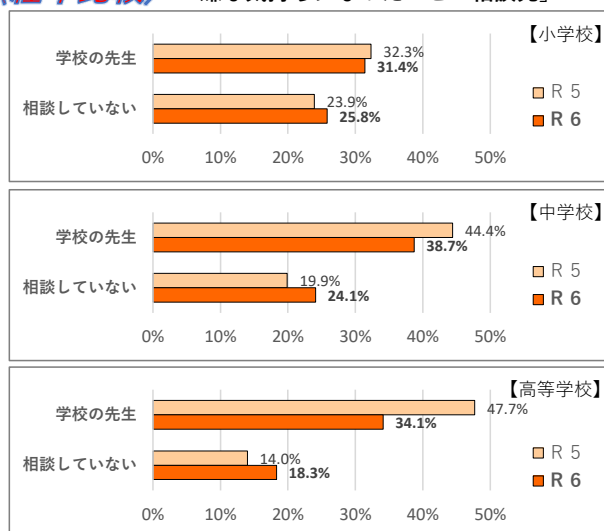


「その他」の記述例

- ・自分が恥ずかしい
- ・反省をしているが、一緒にいたくない気持ちがある
- ・自分もされたらどのような気持ちになるかを考えている
- ・言い過ぎたかもしれない
- ・よくわからない

嫌な気持ちにさせたことに対する気持ちについて、全ての校種において反省や後悔の回答が多かったが、約2割の児童生徒が「相手も悪い」と回答した。

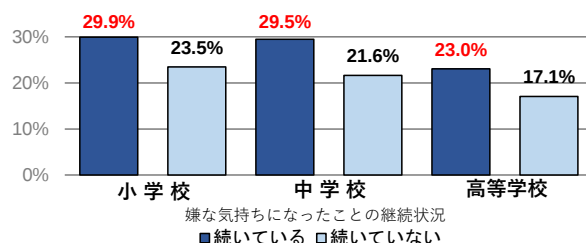
〈経年比較〉「嫌な気持ちになったことの相談先」



〈クロス集計1〉

「嫌な気持ちになったことの継続状況」と「嫌な気持ちになったことの相談先」の関係 (問2 (3)) × (問2 (4))

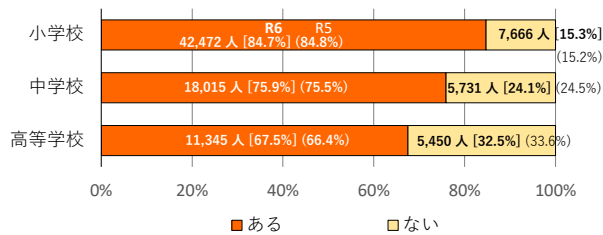
○「嫌な気持ちになったことを、誰にも相談していない」を選択した割合



嫌な気持ちになったことが続いていると回答した児童生徒は、誰にも相談していない割合が高い。

(3) 教職員からの言動に関すること

問5 うれしい気持ちになったことの有無



(問5で「ある」と回答した児童生徒について)

問6 (1) うれしい気持ちになったことの内容 (複数回答可)

小学校		R 6	R 5	
1	楽しく、分かりやすい授業	28,335人	66.7%	67.6%
2	がんばったことを認めてくれた	21,168人	49.8%	49.7%
3	困っているとき、助けてくれた	18,033人	42.5%	42.5%
4	悩みを聞いたり、相談に乗ってくれた	13,923人	32.8%	32.0%
中学校		R 6	R 5	
1	楽しく、分かりやすい授業	11,702人	65.0%	65.0%
2	がんばったことを認めてくれた	7,842人	43.5%	42.7%
3	困っているとき、助けてくれた	6,119人	34.0%	32.4%
4	悩みを聞いたり、相談に乗ってくれた	5,650人	31.4%	29.8%
高等学校		R 6	R 5	
1	楽しく、分かりやすい授業	6,057人	53.4%	52.7%
2	がんばったことを認めてくれた	4,389人	38.7%	38.6%
3	悩みを聞いたり、相談に乗ってくれた	3,306人	29.1%	28.1%
4	困っているとき、助けてくれた	3,152人	27.8%	26.5%

「その他」の記述例

・面白い話をしてくれた ・自分の趣味に興味を持ってくれた
・体調が良くないとき心配してくれた ・自信がないことに自信をくれた
・クラスの雰囲気を楽しんでくれた 等

(問5で「ない」と回答した児童生徒について)

問6 (2) 教職員にしてほしいことの内容 (複数回答可)

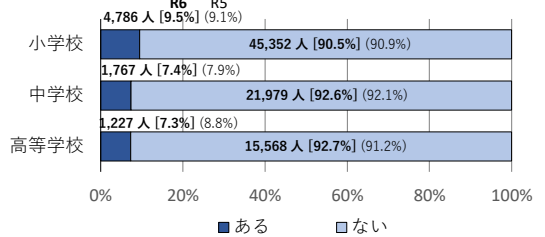
小学校		R 6	R 5	
1	楽しく、分かりやすい授業	2,760人	36.0%	37.2%
2	誰に対しても同じように接してほしい	1,693人	32.7%	33.2%
3	がんばったことを認めてほしい	1,450人	18.9%	20.1%
4	納得いくまで話してほしい	1,352人	17.6%	19.4%
中学校		R 6	R 5	
1	楽しく、分かりやすい授業	2,101人	36.7%	37.9%
2	誰に対しても同じように接してほしい	1,631人	28.5%	29.2%
3	がんばったことを認めてほしい	887人	15.5%	15.4%
4	意見や考えを尊重してほしい	830人	14.5%	14.6%
高等学校		R 6	R 5	
1	楽しく、分かりやすい授業	1,749人	32.1%	35.4%
2	誰に対しても同じように接してほしい	913人	16.8%	17.2%
3	がんばったことを認めてほしい	622人	11.4%	12.3%
4	意見や考えを尊重してほしい	596人	10.9%	11.2%

「その他」の記述例

・話しやすい環境を作してほしい ・毎日笑顔で笑っていてほしい
・校則の見直しをしてほしい。 ・どんな話でも最後まで聞いてほしい
・生徒やクラスの様子をもっと見てほしい 等

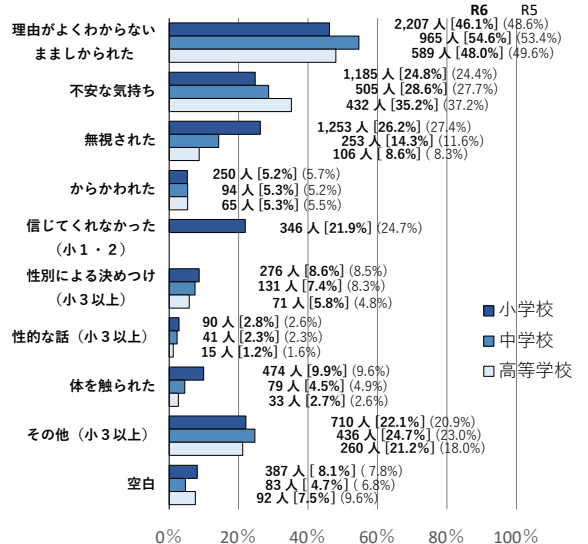
うれしい気持ちになったこと、教職員にしてほしいことについて、「楽しく、わかりやすい授業」が最も多かった。また、上位を占める項目は、校種間での差はあまり見られなかった。

問7 嫌な気持ちになったことの有無



(問7で「ある」と回答した児童生徒について)

問8 (1) 嫌な気持ちになったことの内容 (複数回答可)



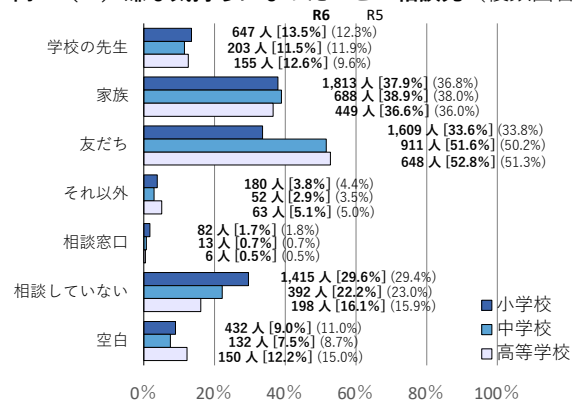
「その他」の記述例

・他の人もしていたけど自分だけが怒られた
・挨拶をしたのに返してくれなかった ・意見を完全否定された
・人と比べられた ・口調がきつい 等

嫌な気持ちになった内容は、全校種において「理由がよくわからないまま、しかられた」が最も多かった。

(問7で「ある」と回答した児童生徒について)

問8 (2) 嫌な気持ちになったことの相談先 (複数回答可)

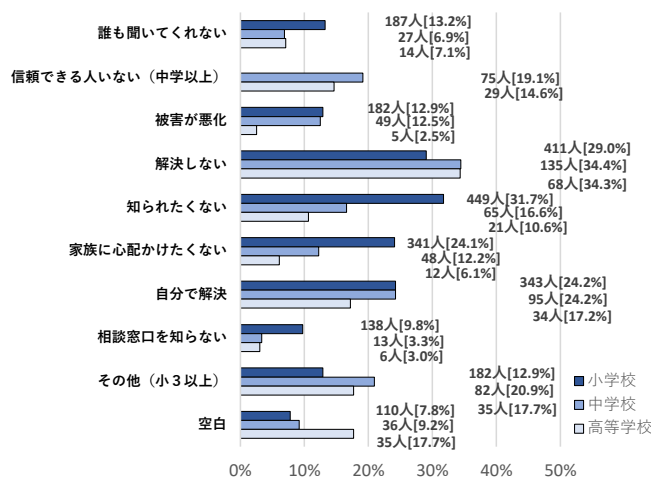


教職員からの言動で嫌な気持ちになったことの相談先について、「学校の先生」に相談する割合は約1割であった。また、約2～3割が「相談していない」と回答した。

※今年度より新設

(問8(2)で「相談していない」と回答した児童生徒について)

問8(3) 誰にも相談していないのはなぜですか。(複数回答可)

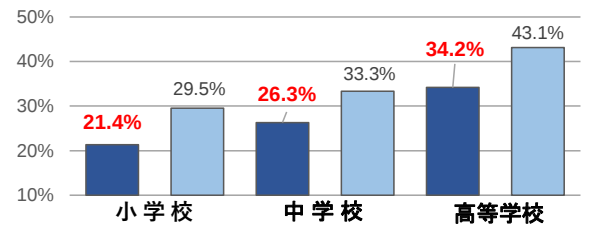


小学校は特に他校種に比べ「他人に知られたくない」の割合が高く、中学校・高等学校では「相談しても解決しない」「自分で解決しようと思う」の割合が高かった。

〈クロス集計2〉

「相談しても解決しない」と「教職員からの言動」の関係 (問2(5)) × (問5)

○「解決しない」を選択した割合



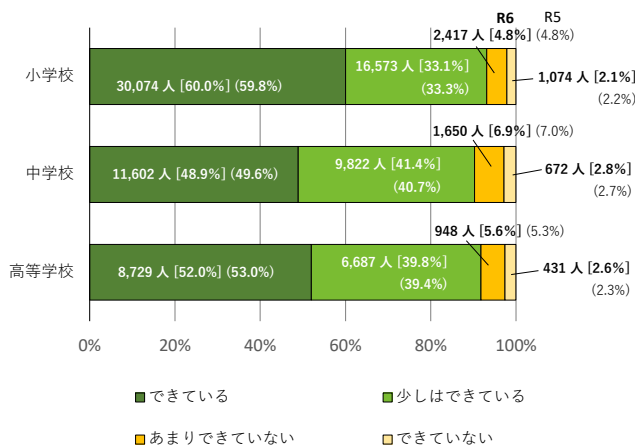
先生がしてくれたことで嬉しい気持ちになったこと



教職員からの言動で、うれしい気持ちになったことがある児童生徒は、相談しても解決しないと思う割合が低い。

(4) 一人一人のちがいを認め合うこと

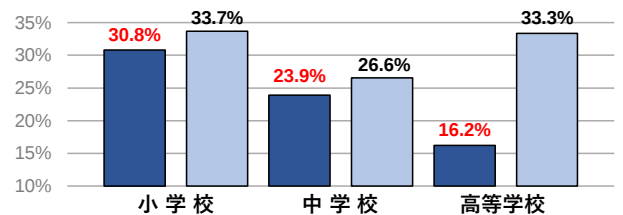
問9(1) 周りの人たちは、ちがいを認め合っているか



〈クロス集計3〉

「知られたくないから相談しない」と「周りの人たちのちがいに対する考え」の関係 (問2(5)) × (問9(1))

○「知られたくない」を選択した割合

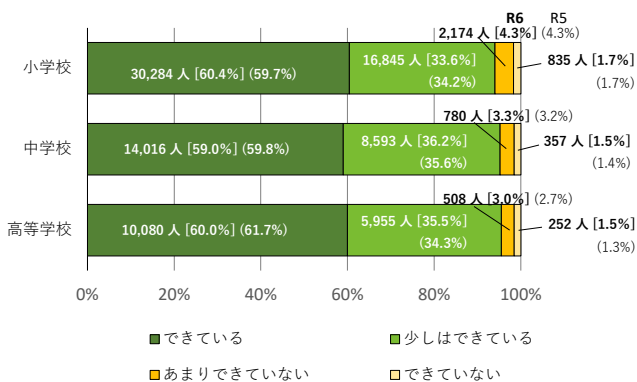


周りの人たちは、ちがいを認め合っているか



周りの人たちは、ちがいを認め合っていると感じている児童生徒は、知られたくないから相談しないと思う割合が低い。

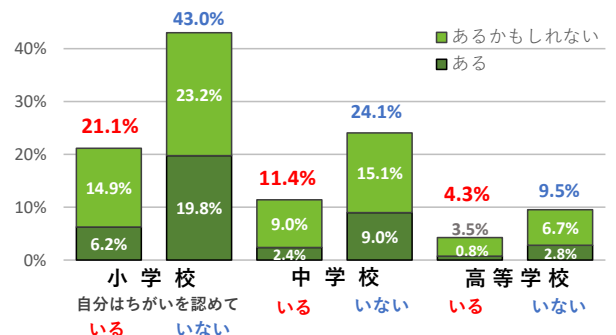
問9(2) 自分は、ちがいを認めることができるか



〈クロス集計4〉

「相手を嫌な気持ちにさせたこと」と「自分自身のちがいに対する考え」の関係 (問3) × (問9(2))

○「いやな気持ちにさせたことがある・あるかもしれない」を選択した割合



自分自身はちがいを認めていると思う児童生徒は、相手を嫌な気持ちにさせた割合が低い。

9割以上の児童生徒が、周りの人たちに対して、自分自身に対して、ちがいを認めることが「できている」もしくは「少しはできている」と回答した。

令和6年度「人権を確かめあうアンケート」の結果を受けて

奈良県教育委員会

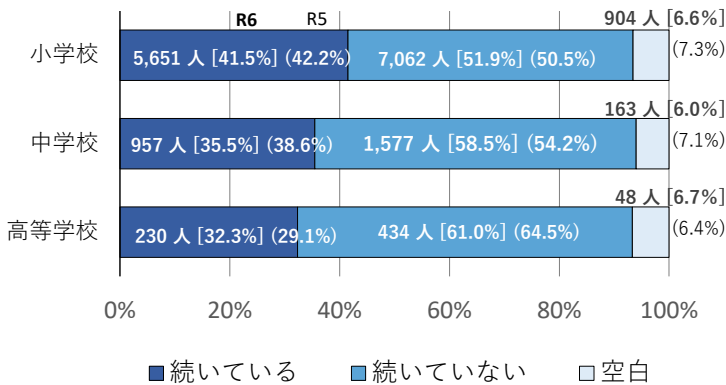
1 / 2

1. 嫌な気持ちになったこと、させたことについて

○嫌な気持ちになったことがあるか

	小学校	中学校	高等学校
あ る	13,617人	2,697人	712人
な い	36,521人	21,049人	16,083人

○嫌な気持ちになったことの継続状況



○嫌な気持ちにさせたことがあるか

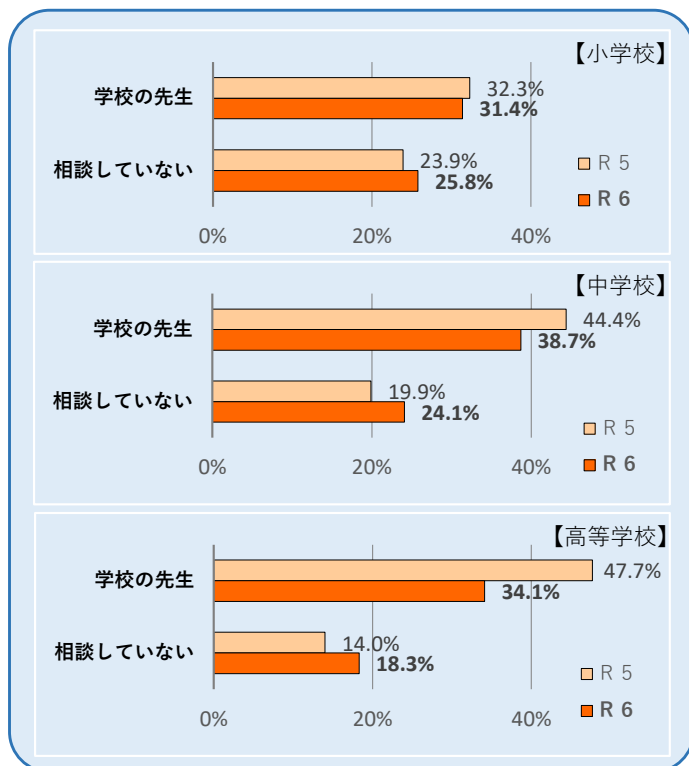
	小学校	中学校	高等学校
あ る	3,799人	723人	140人
あるかもしれない	9,601人	2,913人	848人
な い	36,738人	20,110人	15,807人

嫌な気持ちになったことの継続状況について、小学校においては約4割の児童が、また中学校・高等学校においては3割を超える生徒が解消されていなかった。（回答時点）

児童生徒自身が「自分は大切にされている」という気持ちをもつことが成長につながります。自らの大切さが認められていることを実感できるような環境づくりをお願いします。

2. 相談の状況について

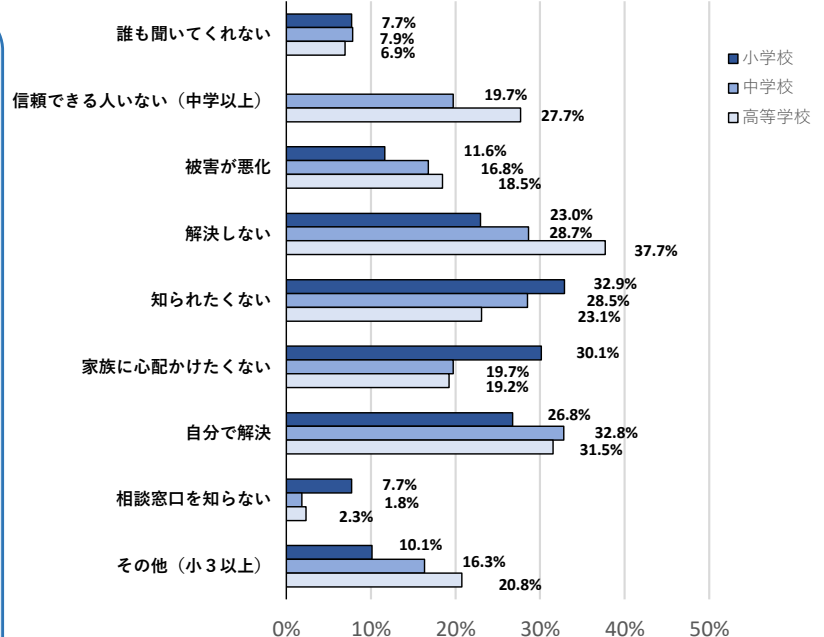
○嫌な気持ちになったことの相談先（複数回答）



相談できずにいる児童生徒のサインに気付けるよう複数の目で見ていくことや、他者に相談することで気持ちが楽になったり視野が広がったりするなど相談することのよさを伝えることも大切です。児童生徒と信頼関係を築きながら、相談しやすい環境づくりをお願いします。

※今年度より新設

○誰にも相談していないのはなぜですか。（複数回答）



誰にも相談しないと回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較して増加傾向にある。どの校種においても、その理由に、「相談しても解決しない」「知られたくない」「家族に心配をかけたくない」「自分で解決したい」と回答した児童生徒が多くみられた。

子ども支援サイト内の「みんなのぼかぼかランド」や、警察庁Webサイト「インターネット上の誹謗中傷等への対応」では、子どもたちのための各種相談窓口を紹介しています。



子ども
支援サイト
へのリンク



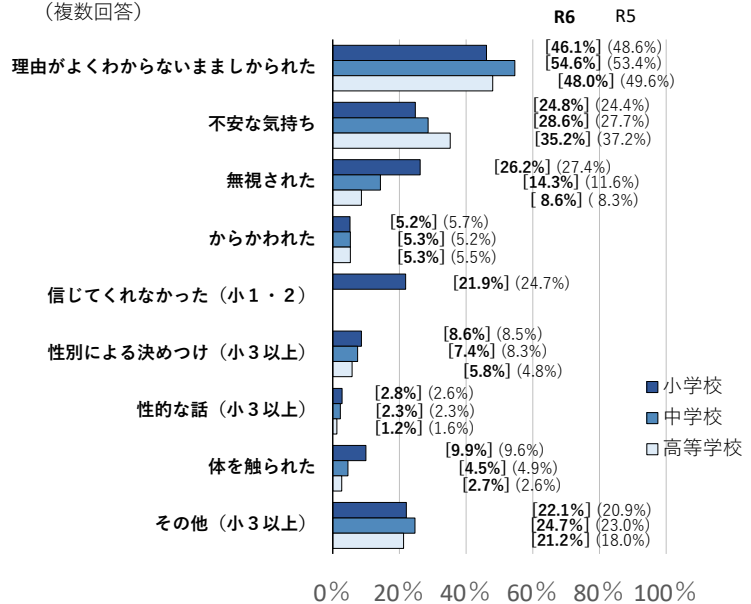
警察庁
Webサイト
へのリンク

3. 教職員と児童生徒との関わりについて

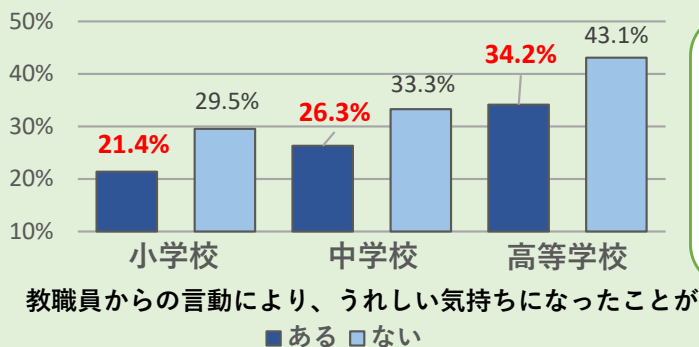
○教職員からの言動により、うれしい気持ちになったことの内容
(複数回答)

小学校			R6	R5
1	楽しく、分かりやすい授業	28,335人	66.7%	67.6%
2	がんばったことを認めてくれた	21,168人	49.8%	49.7%
3	困っているとき、助けてくれた	18,033人	42.5%	42.5%
4	悩みを聞いたり、相談に乗ってくれた	13,923人	32.8%	32.0%
中学校			R6	R5
1	楽しく、分かりやすい授業	11,702人	65.0%	65.0%
2	がんばったことを認めてくれた	7,842人	43.5%	42.7%
3	困っているとき、助けてくれた	6,119人	34.0%	32.4%
4	悩みを聞いたり、相談に乗ってくれた	5,650人	31.4%	29.8%
高等学校			R6	R5
1	楽しく、分かりやすい授業	6,057人	53.4%	52.7%
2	がんばったことを認めてくれた	4,389人	38.7%	38.6%
3	悩みを聞いたり、相談に乗ってくれた	3,306人	29.1%	28.1%
4	困っているとき、助けてくれた	3,152人	27.8%	26.5%

○教職員からの言動により、嫌な気持ちになったことの内容
(複数回答)



「嫌な気持ちになったことを相談しても解決しない」を選択した割合

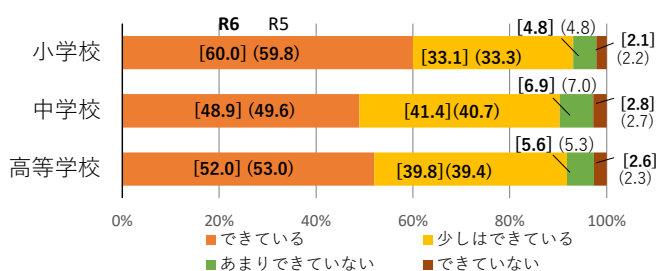


教職員からの言動で、うれしい気持ちになったことがある児童生徒は、相談しても解決しないと思う割合が低かった。

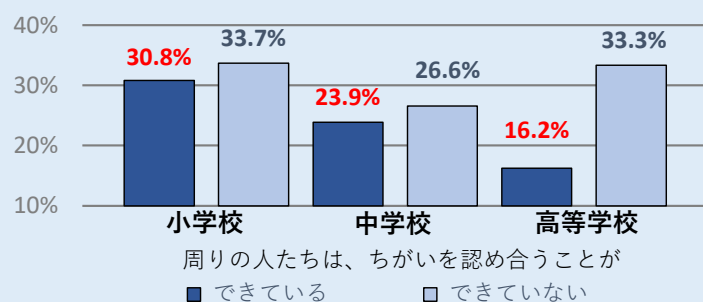
「児童の権利に関する条約 (子どもの権利条約)」や「こども基本法」の理念を踏まえ、「傾聴」や「対話」を大切に、児童生徒一人一人を深く理解できるような配慮をお願いします。

4. 多様性を尊重する教育について

○周りの人たちは、ちがいを認め合うことができるか

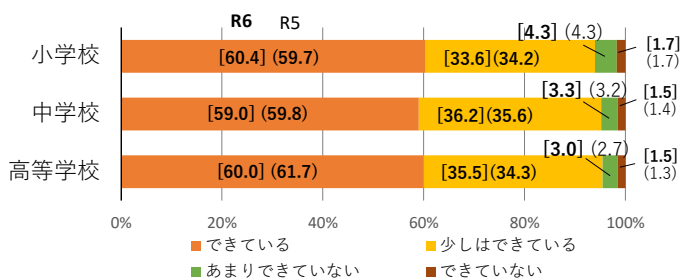


「知られたくないから相談していない」を選択した割合

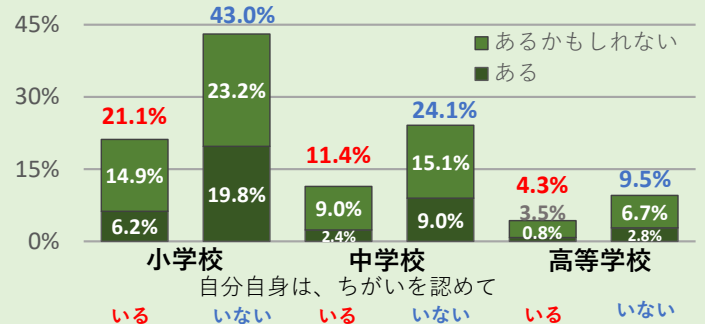


「周りの人たちは、ちがいを認め合うことができる」と感じている児童生徒は、「知られたくないから相談しない」と考える割合が低かった。

○自分は、ちがいを認めることができるか



「相手を嫌な気持ちにさせたことがある」を選択した割合



「自分自身はちがいを認めている」という児童生徒は、「相手を嫌な気持ちにさせた」割合が低かった。

教職員自身の人権も大切にしながら、学校やクラスが児童生徒にとって安心できる、人権が尊重された場となるよう、人権教育の推進をお願いします。

一人一人が大切にされる学校づくりのために(中学生用)

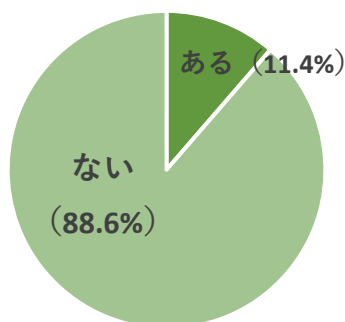
～令和6年度「^{じんけん たし}人権を確かめあうアンケート」結果より～

奈良県教育委員会

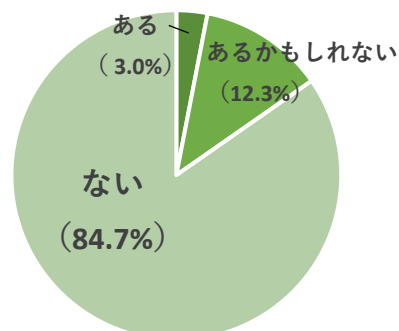
みなさんは、^{まわ}周りの人たちの^{きも}気持ちを考えることができていますか？



いやな気持ちになったこと



いやな気持ちにさせたこと



あなたの周りには、つらい思いをしている人がいるかもしれません。

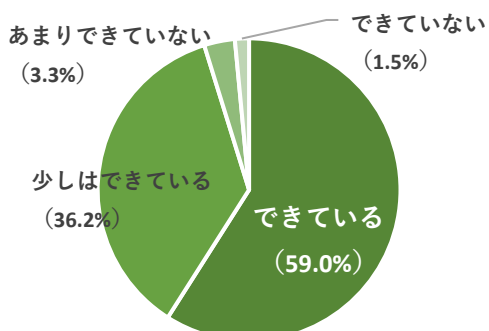
^{ときどき}時々、^{ひごろ}日頃の^{じしん}自身の^{げんどう}言動を^ふ振り返^{かえ}ってみましょう。

みなさんの学校やクラスは、一人一人の^{みと}ちがいを認め合う、^{そん ちよう}人権が尊重された場になっていますか？

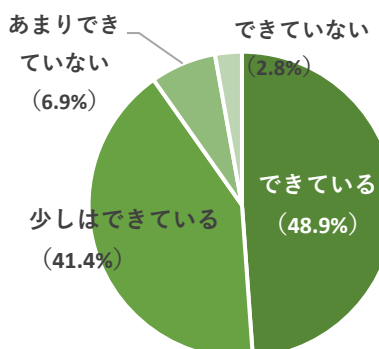


一人一人のちがいを認め合うことができますか

〈あなたは？〉



〈周りの人たちは？〉

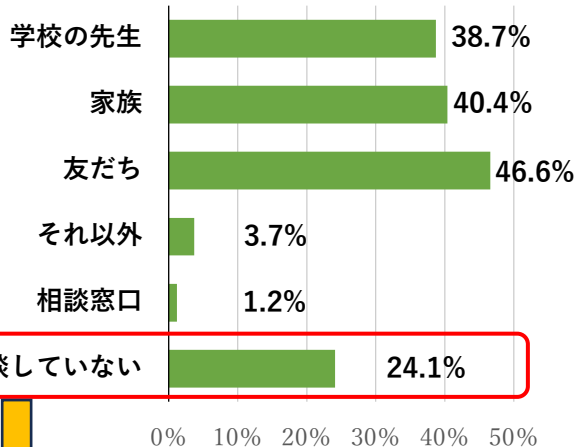


あなたも、周りの人たちも、みんなが大切な存在です。一人一人のちがいを大切にしましょう。

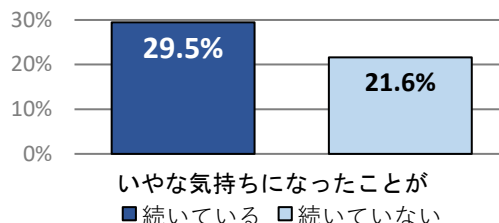
みなさんは、いやな気持ちになって悩んだ時に、信頼できる誰かに相談できていますか？



いやな気持ちになったことについての相談先



「いやな気持ちになったことが、今も続いているか」に対する各回答者が、「誰にも相談していない」を選択した割合



いやな気持ちになったことが続いている人は、誰にも相談していない割合が高かったです。

相談していないのはどうしてだろう？



アンケートでは、「自分で解決しようと思う」や「相談しても解決しない」「誰にも知られたくない」という理由が多くありました。周りの人に頼らずに解決しようと思うことも悪いことではありません。でも、家族や友だち、学校の先生など信頼できる人に話をすることで気持ちが楽になったり、解決の方法がみつかったりすることもあります。苦しい気持ちになったときは、一人で悩まず、誰かに相談してみませんか。

身近な人に相談しづらいときは、下記に示すような様々な相談できる窓口があります。



奈良県教育委員会が運営する「子ども支援サイト」内の「みんなのぽかぽかランド」に様々な相談窓口を紹介しています。



警察庁Web サイト

「インターネット上の誹謗中傷等への対応」

